CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

経済と経営 *32－4* (2002. 3)

〈論　文〉

「経済領域」とは何か

黒　滝　正　昭

I

萬谷　迪氏はかつて，「20 世紀世界経済が 19 世紀のそれと区別される特殊性」をどこに求めるかを問題にして，「19 世紀後半，とりわけ 1870 年代以降，イギリス以外にいくつかの工業国が登場し，各列強ごとに独占的蓄積へと急速に傾斜していきつつある自国資本の蓄積に従属する経済的支配領域を追求するに及んで『領土の分割』競争が独自に急展開をとげることとなり，このことに先行されて，資本制世界市場は拡大されていったのである。その行きついた先が，世紀の境目における『最大の資本主義諸国による地球の全領土の分割の完了』なのであった。この『領土的分割の完了』は，一方ではもともと，広大な経済領域の外延的拡大を必要としているが，他方では，地球全体が近代国家の支配領域に入ったので，資本主義体制全体にとっては，今や領域外延化の余地はなくなったことを意味するのである。したがってこれ以降，20 世紀の世界経済においては，資本蓄積にとり不可欠な世界市場の不断の拡大は従来と異なる方式［国家による全社会的経済開発］による以外になくなったことになる」[1]（下線，［　］内は引用者。以下とくに断らぬ限りは同様）と述べている。

ここで「経済的支配領域」「経済領域」と言われているものは，「領土」と

一体のもの（その裏表を成すもの）として捉えられているように思われる。

しかしその4カ月後，氏は「[レーニン『帝国主義論』] 第6章の対象は，主に領土，『経済領域』などつまり国家による支配領域を問題としているのではあるが，それは政治上の本来の領土問題を対象としているものではない。それによって意味される経済的内容は，言うまでもなく，その領域上にあるすべての自然資源と人口（人間社会）を，全面的に政治権力的に囲い込んで経済的に支配するということなのであって，それは，第3章の金融寡頭支配のところで取り上げている金融資本の全社会生活への支配が世界的に展開したものなのである。また事実，植民地と並んで取り上げている『国家的従属のいくたの過渡形態』においては，もはや直接の領土，領域といった形の支配ではなく，『金融上および外交上の従属の網でおおわれている』ところの，文字通りの国家的従属状態を問題としているのである。(なお，ここに言われている『金融上』というのは，単なる民間金融ではなく，少なくとも国家政策的次元の問題として理解されるべきものである。)」[2] と述べている。

ここでは氏は，「経済領域」を，「領土」とは明瞭に区別して，「国家による支配領域」という共通性はあるものの，「領土」には属さない「国家的従属のいくたの過渡形態」(レーニンが挙げている例では，イギリスにとってのアルゼンチンとポルトガル，あるいは「半植民地」) も，「経済領域」には含まれることを強調している。

金融資本にとって「経済領域」の大小は死活問題だと言われるが，これを領土の大小・植民地の大小と言い換えても，観点が相違するだけで実体は重なると言えるか？あるいは大体において実体は重なるが，「半植民地」や「従属国」の分だけずれる，というふうに理解してもよいのであろうか？　それとも領土や植民地であっても，それが直ちに一つの経済領域を成すとは言えない（例えば一つの領土がいくつもの経済領域に分断されている等）ということがあるものであろうか？　逆にまた「国家による支配領域」を越えた市場や投資領域の広がりは，「経済領域」の拡大と見てはいけないのであろう

か？

思想史的に厳密に問題を検討するためには，「経済領域」という概念を「領土」概念と区別して，誰がいつどういう意味内容を込めて用いたかということから調べねばならない[3]が，遺憾ながら今，そこまで立ち返る余裕は無い。そこで以下，この概念を用いて理論を展開したヒルファーディングやオットー・バウアー，またその概念を援用したレーニンやブハーリンの理解を検討しつつ，いくらかでもヨリ厳密な概念把握を目指すことにしよう。

Ⅱ

初めに検討を要するのは邦訳上の問題である。Wirtschaftsgebiet は，ヒルファーディングやオットー・バウアーの邦訳では「経済領域」と訳されているが[4]，それに当たるロシア語 хозяйственная территория を用いたレーニンやブハーリンの邦訳（ただしブハーリンに関してはロシア語原著は参照できなかった）では「経済的領土」あるいは「経済領土」と訳されている[5]。

とりわけ問題なのは，レーニンが『帝国主義論』第5章末尾に括弧付きで書いている《борьбы за хозяйственную территорию》[6]を，どの邦訳も「経済的領土のための闘争」と訳していることである。そしてどの訳者も，ここに当然付けるべき訳注を付けていない。これはレーニンが，ヒルファーディング『金融資本論』ロシア語訳第22章の表題[7]から引用したものであることは明らかで，レーニン自身が注を付けていないのは，余りにも自明のことと考えたからであろう。ところが邦訳者たちは，全くそれに気づいていないように思われる。何故ならもし気づいたならば（『帝国主義論』第3章冒頭でレーニンがヒルファーディング『金融資本論』ロシア語訳を引用し，引用箇所を自ら注で明示しているところでは，訳者たちは必ず邦訳書とその当該ページを補っている），林　要訳あるいは岡崎次郎訳に従って「経済領域」と訳したに違いないと思われるからである。こうした邦訳者の視野の狭さが，レーニン

研究の一面性を生み出し，レーニン研究とヒルファーディング研究（あるいはブハーリン研究）を切り離し，一般に研究の発展を阻害する一つの要因となるのではなかろうか？

原田三郎氏は，レーニン『帝国主義論』第5章末尾の叙述に関して，「レーニンの四章・五章・六章という展開の仕方は，ヒルファディングの『金融資本論』におけるように，資本の輸出から直ちに経済領域上の闘争すなわち世界の領土的分割の闘争を展開してくる仕方とは異なって，資本家団体の間での世界の分割，すなわち国際カルテルに積極的な意義を与えていることに注目せねばならない」と述べている[8)]。

この場合原田氏は，レーニンの邦訳者たちと異なってレーニンとヒルファーディングとの関連を明瞭に捉え，その上で両者の理論的差異に注目されている[9)]。それでも考えさせられるのは，「経済領域上の闘争すなわち世界の領土的分割の闘争」というレーニンを踏まえた氏の規定である。この点では氏は，上述萬谷氏の最初の見解と一致している。これは，レーニン邦訳者たちの「経済的領土」という訳語が某か影響を与えたものと見るべきなのであろうか？　それともレーニン自身の理解が，「経済領域」と「領土」とを表裏一体のものと捉えていると言うべきなのであろうか？　もし後者だとすると，ヒルファーディングとの関連を度外視すれば，「経済的領土」という訳語は，レーニン自身に関しては必ずしも不的確な訳語ではないと言うべきかも知れない。あるいは逆に考えて，もしヒルファーディングが，この点でレーニンと一致しているとすれば，ヒルファーディング邦訳者の「経済領域」という訳語の方が不的確で，「経済領土」と訳した方がヒルファーディングの原文にヨリ近い，ということすら主張できるかも知れない。

萬谷氏の後の方の見解は，これに対して，レーニン自身においても「経済領域」と「領土」は概念上峻別されており，「経済領域」という訳語の方が，レーニンに関してもヒルファ・・ディングに関しても，ヨリ的確だという回答を与えることになると思われる。そこで次節では，レーニンが依拠している

ヒルファーディングの「経済領域 (Wirtschaftsgebiet)」概念を検討してみよう。

Ⅲ

Der Kapitalexport und der Kampf um das Wirtschaftsgebiet と題された『金融資本論』第5編第22章冒頭のパラグラフでヒルファーディングは，Wirtschaftsgebiet の意義に関して色々な角度から説明を加えている。

Während auf der einen Seite die Verallgemeinerung des Schutzzollsystems den Weltmarkt immer mehr in einzelne staatlich getrennte Wirtschaftsgebiete zu zerlegen strebt, steigert die Entwicklung zum Finanzkapital die Bedeutung der Grösse des Wirtschaftsgebietes.[10] 先ず保護関税制度が一般化することによって，世界市場が，個々の・国家的に分断された複数の経済領域に分解されるというのである。ここで描かれているのは，国家単位に実施される保護関税制度が，その数だけの経済領域を作り出し，世界市場というのは，それらの経済領域の総和としてのみ存在するという構図であろう。

しかし他方で金融資本の形成発展は，自国の経済領域がどれほどの大きさかということを問題とせざるを得なくするというのである。続いて，

Diese ist für die Entwicklung der kapitalistischen Produktion stets von grosser Bedeutung gewesen[1]). Je grösser und bevölkerter ein Wirtschaftsgebiet, desto grösser kann die Betriebseinheit sein, desto geringer also die Produktionskosten, desto stärker auch die Spezialisation innerhalb der Betriebe, was ebenfalls Herabsetzung der Produktionskosten bedeutet. Je grösser das Wirtschaftsgebiet, desto eher kann der Standort der Industrien dorthin verlegt werden, wo die günstigsten natürlichen Bedingungen vorhanden, die Produktivität der Arbeit am grössten ist. Je

ausgedehnter das Gebiet, desto mannigfaltiger die Produktion, desto wahrscheinlicher, dass sich die Produktionszweige untereinander ergänzen und Transportkosten durch Einfuhr von aussen erspart werden. Störungen der Produktion durch Verschiebungen der Nachfrage, durch natürliche Katastrophen werden im grösseren Gebiet leichter ausgeglichen. Es unterliegt daher keinem Zweifel, dass bei entwickelter kapitalistischer Produktion der Freihandel, der den ganzen Weltmarkt zu einem einzigen Wirtschaftsgebiet verbinden würde, die grösste Produktivität derArbeit und die rationellste internationale Arbeitsteilung gewähren würde. (ebenda)

ここでは金融資本に限らず，一般に資本家的生産の発展にとって経済領域の大きさは常に大きな意義を持っていたとして，脚注[1]でOtto Bauer, Die Nationalitätenfrage und die Sozialdemokratie [Wien 1907], S. 178ff. を参照せよとされている。当該箇所は，III. Der Nationalitätenstaat, § 16. Oesterreich als deutscherStaat の後半部にあるが，そこでは Bauer は「経済領域」には全く言及せず，主題はハプスブルクのドイツ人支配権力に対するチェコ人貴族の反抗と敗北・没落，さらにチェコ市民層の没落であり，こうして1620年以降の30年戦争の結果，チェコ人は，抑圧された農民，職人等が残るだけの「歴史なき民族」に転落してしまったという点にある。何故 Bauer が本格的に「経済領域」概念を用いて展開している§15. Das Nationalitätsprinzip, S. 155－158, あるいは§16. であればS. 183ff., さらに§17. Das Erwachen der geschichtslosen Nationen, S. 189ff. や§18. Der moderne Kapitalismus und der nationale Hass, S. 216ff. または後述§27, S. 140f. 等ではなく，他ならぬこの箇所の参照をヒルファーディングが求めているのか，理解に苦しむところである[11]。敢えてこの箇所で関連しそうな部分を探すと，

「幾つかの世界通商路の諸変位もまた，チェコ市民層の止め難い衰退を加

速した。ハプスブルク諸国にとって，とりわけコンスタンチノープルの陥落とヴェネツィアの衰退，レヴァントにおけるチェコ市民層の所有地の喪失が，恐るべき破局を意味した訳は，それら諸国の経済的意義が，何と言っても少なからざる部分，それら諸国が北方及び西方貿易をこの二つの商業センター［コンスタンチノープルとヴェネツィア］で仲介していたことに基づいていたからである。これら商業センターの不幸な出来事の影響は，一つの国から他の国へと移植された。ベーメンではそれらの影響は，市民層に最後の一撃を与えた。17世紀半ば頃プラハには，Becher と Hörnigk の記述によれば1245人いた職人が，1674年には355人しかいなかった。」(S. 179f.; 181－182頁。下線は原文隔字体)[12] という叙述がある。

これが「経済領域」の大きさに関わるとすると，ハプスブルク諸国の「経済領域」は，かつてはハプスブルク家が支配した帝国のみならずコンスタンチノープルとヴェネツィアという二大商業センターを含んでいたものが，17世紀後半には［しかしコンスタンチノープル陥落は1453年，ヴェネツィア衰退は15世紀末の地理上の発見以降］両センターを失い，「経済領域」が縮小して，資本家的生産を衰退させたという趣旨なのであろうか？　そうだとするとヒルファーディングの理解では，「経済領域」は国家の政治的支配領域(領土)を越えて，その国の市民層が経済的に支配する領域を含むことになろう。

以下ヒルファーディングは，「経済領域」が大きいことが資本主義の発展にとって何を意味するかを列挙して，「発達した資本家的生産の下では，世界市場全体を統一して単一の経済領域にするであろうような自由貿易[13] が，最大の労働生産性と最も合理的な国際分業とを保証するであろうということは疑いを容れない」と言うのである。ここで描かれた，単一の経済領域となっている世界市場というものは，「領土」と重なることはあり得ないであろう。勿論現実に自由貿易が，単一の経済領域としての世界市場を実際に創り出すと彼が考えている訳ではないことは，この文章が接続法第二式を使って書かれていることで分かる。しかし純理論的に考察するならば，経済領域の最大限

は世界市場であり，自由貿易は，個々の経済領域間の壁を取り払うことによって，この最大限に向かう傾向があるということは否定し難いという趣旨であろう[14]。

ところが金融資本とカルテルが支配する下では，自由貿易の作用による経済領域の拡大の道は閉ざされ，力による経済領域の拡張（具体的には植民地獲得とそれを含む保護関税障壁の構築が念頭にあると思われる）と関税の引き上げによる国内カルテルの強化，それがうまく行かなければ資本輸出による解決が志向される。

Gleichzeitig mit dem aktiveren Eingreifen in die Weltpolitik, die durch die Kolonialleidenschaft verursacht war, entstand das Bestreben, das durch die Schutzzollmauer umgebene Wirtschaftsgebiet so umfangreich als möglich zu gestalten.／Soweit die Wirkungen des Schutzzolls die Höhe der Profitrate ungünstig beeinflussen, sucht das Kartell sie zu überwinden durch Mittel, die ihm das Schutzzollsystem selbst an die Hand gibt. (ebd., S. 393)

その諸手段の第一が輸出奨励金であって，それをカルテルがどれだけ出せるかは，自国の保護関税でプレミアムを与えられる国内生産がどれだけ大きいかにかかっている。

So entspringt hier abermals wieder nicht das Interesse am Freihandel, sondern nach Ausdehnung des eigenen Wirtschaftsgebietes und nach Erhöhung der Zölle. (ebenda)　こうして自由貿易には利益はなく，保護関税で守られた経済領域の拡大と関税の引き上げが追求される。しかしながら，

Sofern aber dieses Mittel versagt, setzt der Kapitalexport in Form der Errichtung von Fabriken im Ausland ein. Die durch den Schutzzoll der fremden Länder bedrohte Industriesphäre nützt jetzt selbst diesen Schutzzoll aus, indem sie einen Teil der Produktion in das Ausland verlegt.

(ebenda)

そういう訳で

Der Freihandel erscheint so dem Kapital überflüssig und schädlich. Die Hemmung der Produktivität infolge der Verkleinerung des Wirtschaftsgebietes sucht es wettzumachen nicht durch Uebergang zum Freihandel, sondern durch Erweiterung des eigenen Wirtschaftsgebietes und Forcierung des Kapitalexports. (S. 394)

したがって各経済領域の分立・対立は，商品輸出を妨げるけれども資本輸出は全く妨げない[15]。むしろ資本輸出で利益を上げるためには，各経済領域が高率の保護関税で囲まれている方がヨリ好都合であるというのが，ヒルファーディングの趣旨であるように思われる。こうして彼は，金融資本の政策目標を三つにまとめる。

Die Politik des Finanzkapitals verfolgt somit drei Ziele: erstens Herstellung eines möglichst grossen Wirtschaftsgebiets, das zweitens durch Schutzzollmauern gegen die ausländische Konkurrenz abgeschlossen und damit drittens zum Exploitationsgebiet der nationalen monopolistischen Vereinigungen wird. (S. 412)

可能最大限な一個の経済領域が，諸々の保護関税障壁によって外国の競争がシャットアウトされた状態にあること（だから決して世界市場を，単一の経済領域にしようとはしない！），そして望むらくはそれと同時に，その経済領域がナショナルな独占諸団体（カルテル，トラスト等）の専一開発領域になること（植民地化あるいは資本輸出を通じた経済的・政治的従属国化）[16]，要するに関税障壁で保護された一大経済領域と望むらくはその植民地化（領土的併合）あるいは従属国化，これが金融資本の政策目標だというのである。

こうしてみるとヒルファーディングの場合，「経済領域」とは，原理的には国内市場およびそれと結合して国家の支配領域を越えて広がる交通・商品取引関係とそれによって形成されていく世界市場（これは複数の大経済領域か

ら成るもので，自由貿易はそれらを一つに融合していく傾向を持つ。世界市場は，資本家的生産一般の発展にとって不可欠）を指すものと捉えられているが，金融資本の支配という状況下では，こういう意味での経済領域をベースにして，それが保護関税障壁によって囲い込まれるということが「経済領域」概念の不可欠の要件になる。その上でそれが植民地化され，領土的に併合されるか，あるいは経済的・政治的従属国化されることが，ヨリ望ましい[17]ということになると思われる。

Ⅳ

オットー・バウアーは，§18. で「経済領域」概念を法・交通と一括して，次のように用いている。

Die deutsche Bourgeoisie in Böhmen braucht den gesamten österreichischen Markt. Sie wünscht daher, dass Oesterreich ein einheitliches Rechts-, Verkehrs- und Wirtschaftsgebiet bilde: sie ist im Reiche zentralistisch. Dagegen will sie ihre Mehrwertbeute dagegen sichern, dass sie durch ihre höhere Steuerleistung auch für die Bedürfnisse des geringere Steuern tragenden tschechischen Landesteiles aufkommen müsse; sie ist daher im Lande föderalistisch, verlangt territoriale Abgrenzung Deutschbömens von tschechischböhmen, will Deutschböhmen zu einem selbständigen Kronland machen. (S. 217；213 頁。下線は原文隔字体)

ベーメン（ボヘミア）のドイツ人ブルジョアジーは全オーストリア市場を必要とするが故に，オーストリアが「一個の統一的な法・交通・経済領域」を形成することを欲し，すなわちライヒは中央集権であれと望んでいる。ところが自分たちが納めている相対的に高い税金を，ヨリ少ない税金しか納められないチェコ人の居住するラント部分の必要を賄うために使うことには反

対で，自分たちの剰余価値の獲物は自分たちのためにのみ使おうとする。そのため現在まとまっているベーメンのラントを，ドイツ人ベーメン領とチェコ人ベーメン領とに領土的に分離し，前者を独立の帝室領(クローンラント)にするよう要求している，というのである。

ここでバウアーが「法・交通・経済領域」と一括していることで分かるように，彼は，法の統一と交通の発展によって自然発生的に開ける全オーストリア的国内市場のことを，統一的「経済領域」と呼んでいる（現状は逆に，ハプスブルク家が支配するオーストリア帝国の中に統一されないいくつかの経済領域がある，ということになろう)。金融資本の支配と保護関税障壁という問題は，ここでは全く関係がない。ヒルファーディングが仮定で描いた自由競争と世界市場の関係という論理が，ここでのバウアーにおいてはナショナリティー問題との関わりで，ベーメンのラントと全オーストリアというライヒの関係の問題として論じられていると言ってよいであろう。

しかしバウアーは，VI. Wandlungen des Nationalitätsprinzips., §27. Die Wurzeln der kapitalistischen Expansionspolitik. においては，ヒルファーディングが引用して然るべき次のような論点を提起している。

Der alte englische Freihandel war kosmopolitisch: er reisst die Zollgrenzen nieder, will die ganze Welt zu einem Wirtschaftsgebiet zusammenschliessen. Die internationale Arbeitsteilung soll alle Völker vereinen; nicht mehr im blutigen Streit der Waffen, sondern im friedlichen Wettbewerb sollen die Völker ihre Kräfte messen./ Ganz anders der moderne Imperialismus. Er will nicht aus allen Ländern ein einheitliches Wirtschaftsgebiet bilden, sondern hegt das eigene Wirtschaftsgebiet mit einer Zollgrenze ein; er erschliesst minder entwickelte Länder und sichert dort den Kapitalisten seines Landes Anlagesphären und Absatzgebiete, von denen er die Kapitalisten der anderen Länder ausschliesst. Er träumt nicht Frieden, sondern bereitet den Krieg vor. Er glaubt nicht die ganze

Menschheit zu freiem friedlichen Austausch und Wettbewerb vereinen zu können, sondern sucht dem eigenen Lande auf Kosten der anderen zu nützen, indem er mit Zöllen, mit Kriegsflotten und Soldaten sich gegen das Ausland waffnet...Die wirtschaftspolitischen Zwecke haben sich nicht geändert seit den Tagen der Cobden und Bright; aber indem die Mittel der kapitalistischen Wirtschaftspolitik sich veränderten, wurden aus kosmopolitischen Liberalen nationale Imperialisten. (S. 410f.; 399頁。下線は原文隔字体)

これは一見，本稿IIIで引用したヒルファーディングと同一の議論のように見える。しかしバウアーにおいては，自由貿易が世界市場を一個の経済領域にするということが，理論的仮定としてではなく，19世紀イギリスの歴史的事実として扱われ，そのさいコブデンやブライトのイデオロギーが，そのままイギリスの対外政策になっていたかのように単純に捉えられている(『金融資本論』第5編第21章と比較せよ)。[確かにバウアーは，上条氏が強調するように，19世紀イギリスの例は偶然に全体利害が支配諸階級の利害と一致した（あるいは国際分業の諸要求が，資本家的経済政策の諸要求と一致した）という偶然の産物であって，資本主義社会は一般に自由貿易を実現してこなかったし，もはや実現することはないだろう（それを実現するのは社会主義社会のみ）と他の箇所で述べているが，しかしそういう条件付であっても，19世紀イギリスでは間違いなく自由貿易が実現し，世界市場を一個の経済領域にすることが実現しつつあったと捉えている点が，ヒルファーディングと異なるのである。上条前掲論文，245－246頁]

さらに資本主義的経済政策の目標は，昔も今も自国の資本家に投資領域と販売市場を確保するという点で不変であり，ただ手段が，かつては平和的自由貿易であったものが，今では関税，艦隊，陸軍兵隊による武装に変わったために，かつてのコスモポリタンな自由主義者は，今やナショナルな帝国主義者に変わったというバウアーの把握。その場合バウアーに一貫しているの

は，投資領域の確保と販売市場の確保とは根本において一個同一の課題だという把握である（§27. 全体を見よ）。この見地に立つと，資本輸出の持つ特別の意義が消えてしまう。国内であれ外国であれ，投資の拡大ができれば販売も拡大し，販売が拡大するならば投資も拡大するという，ごく平板な捉え方に落ち着いてしまう。正にこの点が，ヒルファーディングと真っ向から対立するのである。

バウアーも，現代帝国主義がもはや全世界を一個の統一的な経済領域にすることを欲せず，逆に関税境界で自己の経済領域を囲い込むこと，関税を引き上げてカルテルを可能にし，世界市場におけるダンピングの武器を手に入れること，低開発諸国を植民地化し，自国の独占的な投資領域・販売領域にすることを，歴史的事実関係としては良く知っている。しかし，保護関税で自己の経済領域を囲い込むことが正に資本輸出を生み出すという，必然的・理論的関連については，全く捉えられていない。そのためバウアーは，理論的には「投資領域＝販売領域＝経済領域」という抽象的把握に還元される傾向があり,「保護関税障壁で囲まれるが故に拡大衝動を持つ矛盾した存在；その矛盾を解決するものが資本輸出であること」：これが経済領域概念の本質である，というヒルファーディング理論のレヴェルに達しないのである。

したがって，もしヒルファーディングがバウアーの§27. を引用あるいは参照指示した場合には，立ち入ったバウアー批判を避ける訳には行かなかったのではなかろうか？　事柄の内容からすれば当然引用して然るべきところを，敢えて引用も参照支持もしなかったのは，このためかも知れない。

反面ヒルファーディングの場合，資本の輸出先は，理論的には輸出元の経済領域とは別の，対立する大国の経済領域であることになるが，これと植民地との関係，あるいは資本輸出の結果として経済的・政治的に従属させることになる国・地域との関係が，十分に解けていないように思われる。資本輸出の結果として鉄道・港湾等が敷設され，土地が取得されたその輸出先を植民地化（領土的併合）できれば，それがベストであるという考え方があるか

らである。あるいはそれができぬ場合にも，経済的・政治的に従属した衛星国にする。それらの結果として，資本を輸出する国の経済領域が事実上拡大されるという論理がありそうに思われるからである。次節で見るブハーリンやレーニンは，この問題を明瞭にしようとしたのではなかろうか？

V

ブハーリンは，著書『世界経済と帝国主義』においてヒルファーディングの前掲箇所を，現代政治の主要諸目標に関する最も優れた規定として引用し，自己の理解を示している（遺憾ながらロシア語原著が入手できないので，ドイツ語訳で引用する）。 Mann kann die Hauptziele der modernen Politik nicht besser definieren, als das Rudolf Hilferding getan hat:

"Die Politik des Finanzkapitals verfolgt somit drei Ziele: erstens Herstellung eines möglichst großen Wirtschaftsgebiets, das zweitens durch Schutzzollmauern gegen die ausländische Konkurrenz abgeschlossen und damit drittens zum Exploitationsgebiet der nationalen monopolistischen Vereinigungen wird" [R. Hilferding, "Das Finanzkapital", S.412.]

Die Ausdehnung des Wirtschaftsgebiets bringt den "nationalen" Kartellen agrarische Gebiete und folglich auch Rohstoffmärkte;sie erweitert die Absatzmärkte und die Sphären der Kapitalanlage; die Zollpolitik gestattet es, die ausländische Kokurrenz niederzuhalten, einen Extraprofit zu gewinnen und denSturmbock des Dumping in Gang zu setzen; das gesamte "System" begünstigt die Erhöhung der Profitrate für die monopolistischen Organisationen. Diese Politik des Finanzkapitals —— das ist der Imperialismus./ Eine solche Politik setzt gewalttätige Methoden voraus, denn eine Ausdehnung des Staatsgebiets bedeutet Krieg. (S. 116f.; 162－163頁。下線は原文隔字体。)

ブハーリンの理解では，経済領域の拡大は自国のカルテルに農業地域・原料市場をもたらし，その結果販売市場・投資領域を拡大するというのであるから，植民地の拡大と同義に捉えていると思われる。その上で拡大された植民地を含む領土に関税障壁をめぐらすことにより，超過利潤を手に入れ，ダンピングを開始する。この全「システム」が独占諸団体の利潤率を引き上げる。彼はこういう順序でヒルファーディングを理解し，この金融資本の政策－これを実現する現代の政治，これが帝国主義であり，それは暴力的方法＝戦争によって国家領土(Staatsgebiet)を拡大することである，とまとめている。ヒルファーディングとバウアーの違いについては，ブハーリンは全く意識しておらず，両者を共々肯定的に評価し，引用している(S. 115；160－161 頁)。

レーニンは『帝国主義論ノート』において，『金融資本論』ロシア語訳（モスクワ 1912）から，ブハーリンがドイツ語原著から引用した当の部分を引用している。

「495.金融資本の政策（1.2.3.）

495：《金融資本の政策は三通りのタイプの目標（<u>троякого рода</u> цели）を追求する：第一に，できるだけ広大な経済領域の樹立（создание возможно <u>обширнои</u> хозяйственной территории），この経済領域は（которая），第二に，関税障壁によって外国の競争から保護されていなければならず，かくして，第三に，ナショナルな独占諸団体（<u>союзы</u>）にとっての<u>開発</u>地域（область <u>эксплуатации</u>）[18] に変わらねばならない》...」(c. 312；307 頁)

（諸植民地）
（保護貿易主義）
（諸独占企業体）

これで見るとレーニンもブハーリン同様，第一の目標を，あちこちに植民地を獲得することと理解している。そして第二が保護貿易主義，第三が諸々の独占企業体の問題と捉えている。これらが「金融資本の政策（1.2.3.）」というふうに，並列関係で捉えられているようである。[19]

本稿IIで見たように，『帝国主義論』第5章末尾に「世界の領土的分割，すなわち諸々の植民地獲得のための闘争，すなわち《経済領域獲得のための闘争》」(c. 373；副島98頁；宇高125頁；聴濤123頁)と述べられているのは，これを踏まえたものであろう。「経済領域」というヒルファーディング流の幅のある概念を，ブハーリンやレーニンは，諸国家による世界の領土的分割＝「植民地」の問題，と割り切ることで明瞭化しようとしたのであろう。その結果，ヒルファーディングにおいて「経済領域」概念と不可分に結びついていた保護関税と資本輸出の問題を，これと区別して理論的に位置づけねばならなくなったものと思われる。

レーニンの場合は，全体を「世界の分割」に引きつけて，第4章「資本の輸出」では資本輸出する先進資本主義諸国は「言葉の本来の意味でではないが，世界を自分たちの間で分割した」とされ，これに対して「金融資本は文字通りの世界の分割をもたらした」[20]として，第5章「資本家たちの諸団体の間での世界の分割」[国際カルテル]および第6章「列強の間での世界の分割」[植民地]を，「文字通りの世界の分割」の問題と位置づけている。こういう理論的枠組みが立てられると，「資本輸出」「国際カルテル」「植民地」という概念で間に合うようになり，「経済領域」概念は「保護関税」と共に影が薄くなってしまう[21]。

これに対してブハーリンは，ヒルファーディングとレーニンとの中間的位置にいるように思われる。前掲著書・第II編「世界経済と資本のナショナル化の過程」第4章「『諸国民経済』の内的構造と関税政策」において，大体においてヒルファーディングをベースにして「高い関税障壁によって『諸国民経済』を隔絶化する一般的傾向」と追加的利潤の獲得→輸出プレミアムの問題，追加利潤を獲得する方法としての経済領域の拡大等が論じられている。その場合，一方でイギリス帝国主義において，国家領土(Staatsgebiet)が十分に大きいので，植民地拡大政策と並んで分散した諸植民地を本国と融合させて，共通の関税障壁を持つ一大統一“帝国”を形成しようとする努力が現

れていること（この場合「諸植民地」は，イギリスの「国家領土」ではあっても未だ一個の「経済領域」ではないことにならないか？），他方で中央ヨーロッパ関税同盟の形成論議も，「一個の巨大な経済領域の形成」が目的に他ならないという議論を展開しながら(S. 85；115 頁。後者の意味での「経済領域」は，国家の領土を越えたものである)，原則的にはやはり「経済領域」を「関税境界の内部にあり，それ故にまた国家の境界内部にある領域」(S. 85；114 頁。この意味では国家の領土と同じ）という把握に返るのである。

こうしてブハーリンの場合，基本はレーニンと同様，「経済領域」＝「国家領土」；「経済領域の拡大」＝「植民地の拡大」という把握に立ちながら，それでは割り切れぬ問題が色々生ずることを身を以て示していると言えるであろう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

以上の検討を踏まえて暫定的な結論を出すとすれば，どういうことになるであろうか？

「経済領域」を金融資本との関連で，概念として理解しようとすれば，やはり我々はヒルファーディングの説く中身で押えておくべきであろう。

第一に「経済領域」は，「国家領土」や「植民地」とは区別される概念である。国家領土や植民地が，そのまま一つの経済領域を成す訳ではない。

第二にそれは，保護関税障壁で囲まれていることを不可欠の条件とする。この限りでそれは，国家と不可分の関係にあるが，しかしこの障壁は，複数の国家（あるいは自治植民地）を含むことが可能である。

第三にそれは，他の経済領域と互いに対立する関係にあるが，「資本輸出」を通じて障壁が乗り越えられ，逆に障壁が利用されることによって，複数の経済領域が，対立しつつ世界市場的関連の中に置かれる。

第四にそれは，ナショナルな独占諸団体の専一開発領域（植民地）になるならば，金融資本にとってそれが最も望ましい。そのため植民地拡大政策との密接な関係が生ずるが，しかしこれは不可欠の要件ではない。経済領域の

拡大は，必ずしも植民地拡大として行われる訳ではない。

第五に，以上から「経済領域」概念は，常に「保護関税障壁」概念や「資本輸出」概念との本質的な関連において展開されねばならない。「植民地」概念は，後二者に対し，ヨリ現実的・歴史的レヴェルで「経済領域」概念に連結するものである点で注意を要する。

注

1）萬谷　迪「独占段階と世界的経済開発」，札幌大学『経済と経営』第21巻第4号，1991年3月，297－298頁。

2）萬谷　迪「発展途上国における国家的従属」，福島大学『商学論集』第59巻第6号，1991年7月，103頁。

3）いくつかの辞典にこの概念の説明がある。

vom gesamten organismus der wirtschaft im gegensatz zu andern という一般的な意味で用いられ，dasz für dies wirthschaftsgebiet in manchen punkten gesetze bestehen, welche dem widersprechen, was wir auf anderen gebieten als gesetz erkannt haben という用例［Bernhardt, gesch. d. waldeigentums (1872)]; ähnl. 'teil, zweig, bes. disziplin der wirtschaft' の意味で，auf fast jedem wirtschaftsgebiet waren wir auf die einfuhr angewiesen という用例［W. Beumelburg, sperrfeuer (1929)]；geographisch な意味で，das wirtschaftsgebiet der mächte という用例［Meinecke, Boyen――これがヒルファーディング等に近い用例であろう]；abweichend forstwirtschaftlich 'das einer planmäszigen bewirtschaftung zugeführte gebiet' という特殊な意味で，so lange aber ein wirtschaftsgebiet sich auf einer so niederen stufe befindet...という用例［Schwappach, hdb. d. forst- u. jagdgesch.(1886)], in: Deutsches Wörterbuch von Jacob Grimm und Wilhelm Grimm, Vierzehnter Band, II.Abteilung, Leipzig 1960, Reprint-Ausgabe für Japan, Sp.692. これによれば少なくとも1872年から，国語的には用いられていたことが分かる。

ヨリ最近の辞典では，

Gebiet einer einheitlichen Wirtschaft: sich zu einem gemeinsamen W. zusammenschließen, in: DUDEN Das große Wörterbuch der deutschen Sprache in sechs Bänden, Bd. 6, Mannheim 1981, S. 2891.　また，ほぼ似た意味で

Gebiet mit einheitlicher wirtschaftlicher Zielsetzung, in:BROCKHAUS WAHRIG

Deutsches Wörterbuch in sechs Bänden, Sechster Band, Stuttgart 1984, S. 757.

最後に旧東ドイツでは，制度的用語として用いられていた。

über die Kreis- bzw. Bezirksgrenzen hinausgehende territoriale Strukturform der Volkswirtschaft der DDR. Die W. sind durch besondere ökonomisch-technische Verflechtungen bestimmter Zweige mit diesem Territorium charakterisiert., in: Meyers Neues Lexikon, Zweite, völlig neu erarbeitete Aufl. in 18 Bänden, Bd.15, Leipzig 1977, S. 259. これに対応して旧東ドイツの国語辞典では，das territoriales Teilgebiet der Volkswirtschaft mit gewissen Gemeinsamkeiten der Produktion, Wirtschaftsraum: die Gliederung einer Volkswirtschaft in Wirtschaftsgebiete ist ihre regionale Struktur., in: Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache, 55. Lieferung, Akademie-Verlag ・ Berlin 1977, S. 4368.

4）ヒルファディング『金融資本論』（下）岡崎次郎訳，岩波文庫　1982年11月，改版第1刷，288頁以下；同（2）林　要訳，国民文庫［1964］1989年4月　改訳第13刷，229頁以下；オットー・バウアー『民族問題と社会民主主義』丸山敬一・倉田　稔・相田愼一・上条　勇・太田仁樹訳，御茶の水書房　2001年7月，95頁以下。因に独和辞典では「経済領域」と訳されている（『小学館　独和大辞典』小学館　1985年1月，2557頁

5）レーニン『帝国主義論』副島種典訳，国民文庫［1961］1984年4月　新訳第40刷，99頁；同『帝国主義』宇高基輔訳，岩波文庫［1956］1961年4月，第8刷，125頁；同『帝国主義論』聴濤　弘訳，新日本出版社　1999年12月，123頁；ブハーリン著作選3『世界経済と帝国主義』西田　勲・佐藤　博訳，現代思潮社　1970年12月，114－115，162－163頁等。ただしレーニン『帝国主義論ノート』で『金融資本論』が抜き書きされている部分では，ヒルファーディング邦訳を参照したと見えて，「経済領域」と訳されている（『レーニン全集』第39巻，マルクス＝レーニン主義研究所訳，大月書店［1962］1966年2月　第6刷，307頁）。

6）В.И. Ленин Полное Собрание Сочинений изд. пятое, т. 27, Москва 1969, с. 373.

7）Рудольфъ Гильфердингъ. Финансовый Капиталъ. авторизованный переводъ съ немецкаго и вступительная статья И. Степанова. Москва-1912., с. 468. なおステパーノフによる序文及びロシア語訳各版については，黒滝「ルードルフ・ヒルファーディング『金融資本論』ロシア語訳初版（モスクワ1912）訳者序文」『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』第38号，2001年11月，67－84頁参照

8）原田三郎・庄司哲太『帝国主義論コメンタール』ミネルヴァ書房［1973.5］1973年

8月 第2刷，80－81頁。

9）後述するようにヒルファーディングの場合，「経済領域上の闘争」と「世界の領土的分割の闘争」とは区別されており，後者は「資本輸出」から直ちには展開されていないし，媒介を置いても充分に解けているとは言い難いように思われる。他方，「国際シンジケート・カルテル・トラスト」の具体例及びその意義については，ブハーリンが前掲書第一編「世界経済と資本の国際化の過程」第3章「世界経済の組織諸形態」で詳細に論じ，資本輸出との関連も指摘している（N. Bucharin, Imperialismus und Weltwirtschaft, mit einem Vorwort von N. [sic] Lenin, Wien－Berlin 1929, S. 54－65；前掲訳書65－82頁。ブハーリンのロシア語原著は，遺憾ながら入手し得ていない）。このブハーリンとレーニンとの関係も検討されるべきであろう。

10）Rudolf Hilferding, Das Finanzkapital. Eine Studie über die jüngste Entwicklung des Kapitalismus, Separatabdruck aus den Marx-Studien, III. Band, Wien 1910, S. 390.

11）Otto Bauer, Die Nationalitätenfrage und die Sozialdemokratie. Sonderausgabe aus dem II. Bande der Marx-Studien, Wien 1908. 注4）に掲げたように，最近この大著の第2版（Wien 1924）の全訳書が出版されたことは，研究を発展させる上で大きな意義を持つものである。本文に挙げた原著各ページに対応する訳書各頁を掲げると，158－161頁，184頁以下，190頁以下，212頁以下，399頁である。

これらすべての箇所は，すでに1980年に上条 勇氏によって注目され，詳細に紹介・分析されている（上条「オットー・バウアーの『経済領域』論」北海道大学『經濟學研究』第30巻第3号，1980年11月）。しかし，ヒルファーディングのこの脚注で指示されたバウアーの初版S. 178ff.の中身を，氏は確認していない。そのため氏はこれを，内容から言って§15，S. 155－158を指すものと解釈した上で［因にもしヒルファーディングが書名のみの参照に止めていたなら，上条氏の解釈は極めて妥当なものである］，私が本文に引用したヒルファーディングの叙述部分について「資本主義の発展を『金融資本への発展』とおきかえたほかは，バウアーの見解のほとんど要約的な引き写しであるといって過言ではない。経済領域の広さの種々の利点を生産性の観点からのべた箇所は論を待たない。自由貿易と統一的な世界経済領域にかんする発言も――ヒルファディングが国際分業に『合理的な』という形容詞をつけたほかは――バウアーとヒルファディングの見解に相違はない」（254頁）と述べている。

確かに両者の叙述は，事実関係において重なるところが多い。しかし後述するように両者は，理論的把握において根本的に異なるのである。事実関係に限定しても，氏

のようにヒルファーディングによるバウアーの「引き写し」と言えるかどうか？　河野裕康氏が1993年に，Sächsische Arbeiter-Zeitung紙上のヒルファーディング諸論文（Wirtschaftspolitische Rundschauシリーズ，1905/06）を発掘して以来，我々は，バウアーの大著に先行してその経済学部分に大きな影響を与えたヒルファーディングの諸論文を知るようになった（河野『ヒルファディングの経済政策思想』法政大学出版局1993年2月）。[それまでは，「経済領域」概念についてはバウアーがまず1907年に展開し，ヒルファーディングはその影響を受けてその概念を受け継ぎ，発展させたものと捉えられていた。したがって上条氏が，こうした資料が知られるはるか以前にこういう捉え方をしたからと言って，それを理由に上条氏を批判するのは公正さを欠くであろう。なおこれらの点については，黒滝正昭『ルードルフ・ヒルファーディングの理論的遺産』[1995] 1998年5月　第2刷，68頁参照]

例えばドイツが，大国家のうちで資本主義的発展が最も遅れた原因として，

Die Ursachen dafür sind mannigfaltig. Vor allem waren es die Verlegung der Welthandelsstraßen, die Auffindung des Seeweges nach Ostindien und Entdeckung Amerikas, die die Anfänge einer kapitalistischen Entwicklung Deutschlands zerstörten und nacheinander Spanien, Portugal, Holland, Frankreich und dann besonders England zum Schauplatz der kapitalistischen Entwicklung machten. Die Zerstörungen des 30jährigen Krieges, das Elend der Kleinststaaterei, Mangel eines einheitlichen Wirtschaftsgebietes mit einheitlicher Gesetzgebung und einheitlicher Wirtschaftspolitik und der Druck eines...feudalen Absolutismus hinderten jede rasche ökonomische Entwicklung. Erst die Ausgestaltung der Transportmittel, die Eisenbahnen und die Dampfschiffe ermöglichten Deutschland den Zugang zum Weltmarkt und die zuerst wirtschaftliche und dann politische Einigung...ihm die Möglichkeit der kapitalistischen Entfaltung. (Wirtschaftspolitische Rundschau. rh. Die Konzentration des Kapitals, die Krise und die Banken. II., in: Beilage der Sächsischen Arbeiter-Zeitung, 16. Jahrgang, Nr. 61, Dresden, Dienstag den 14. März 1905, S. 1, Sp.1.　... は判読不能単語あるいは単語の一部)

恐らくはこういう，未だ概念として仕上げられているとは言えない「経済領域」用語等を用いたヒルファーディングの経済政策・経済史分析の論文や彼らのグループ内の日常的討論が，バウアーに材料と刺激を与え，彼一流のエネルギッシュな資料探索とヒルファーディングをはるかに上回る著書作成能力によって，経済政策・経済史分

析にも相当入り込んだナショナリティー問題の大著ができた。ヒルファーディングは勿論それから種々学んでいるが，同時にそこに，かつての自分の未完成な理論や分析の再現を見たことも多かったのではなかろうか？ 素直に考えると理解に苦しむ彼のバウアー参照指示頁に，私はそういうニュアンスを感じ取るのである。

12) 初めのS.～で示すページは原著ページ（ここではWien 1908）；次に～頁で示すものは邦訳書頁。以下他の書物の場合も同じ。

13) この下線部は「全世界市場を結合してただ一つの経済領域となすような自由貿易」岡崎訳（下）288頁；「全世界市場を単一の経済領域にむすびあわす自由貿易」林訳（2）229頁と訳されているが，全世界市場を「結合する」あるいは「むすびあわす」とはどういうことか，どうもすっきりしない。その上接続法第二式の意味が訳出されていない。その点で英語訳は良くできている。free trade, which would amalgamate the whole world market into a single economic territory, would ensure...,in: Rudolf Hilferding, Finance Capital, London, Boston and Henley 1981, p. 311.

14) この自由貿易とは別次元で，交通・運輸組織の変革が経済領域に及ぼす影響についての考察がある。Eisenbahnen und Dampfschiffe haben an sich für den Kapitalismus kolossale Bedeutung wegen der Verkürzung der Umlaufszeit...Sodann schaffen erst Eisenbahnen und Dampfschiffe jene grossen Wirtschaftsgebiete, die die modernen Riesenbetriebe mit ihrer Massenproduktion ermöglichen. Vor allem aber waren die Eisenbahnen das wichtigste Mittel der Erschliessung der fremden Absatzmärkte. Nur durch sie wurde die Verwendung der Produkte dieserLänder durch Europa in so kolossalem Massstab möglich, wurde der Markt so rasch zum Weltmarkt erweitert. (S. 407)

ここで鉄道や汽船は，複数の（したがって統一・融合していない）大経済領域を創り出すということ，それらの経済領域各々がそれを支配する国に，現代的大経営・大量生産を可能にする。とりわけ鉄道は，外国の販売市場を開拓する最重要な手段で，それによってのみヨーロッパ向けに巨大な規模での原料の生産・販売が可能となり，したがってまた，それを使ってヨーロッパで大量生産される工業製品を購買できるようになるというふうにして，国内市場は世界市場に拡大されるが，その世界市場は複数の大経済領域から成り，鉄道によってそれが一つに融合することはない。こういう趣旨に理解して良いであろうか？ Noch wichtiger war aber, dass jetzt Kapitalexport im grössten Umfang nötig wurde zum Bau dieser Eisenbahnen, die fast ausschliesslich mit europäischen Kapital, namentlich mit englischem gebaut

wurden. (S. 407) と続いて述べられており，この鉄道建設が今や最大規模の資本輸出対象事業に成っている。そこで専らヨーロッパ資本，とりわけイギリス資本が，自己の大経済領域内の鉄道に投資されるか，あるいはそれを越えて他の経済領域の鉄道建設のために輸出され(この場合は保護関税との関わりは無いであろう)，複雑な経済領域間の資本の絡み合いを創り出すということのようである。

15) この点はブハーリンも強調している。a.a.O.,S.106；前掲書 145 頁。

16) ヒルファーディングの言う「三つの目標」は，単純に三つが並列されていないことに注意を要する。根本は「第一」の「可能最大限な一経済領域の樹立」，これに尽きるのである。「第二」と「第三」は，関係文で「第一」に掛かっていて，それに付属する条件を表している。さらに「第二」と「第三」とでは，掛かり方が異なる。「第二」の保護関税障壁は，直接「経済領域」に掛かって両者の不可分の関係を表しているのに対して，「第三」の「ナショナルな独占諸団体の専一開発領域に成る」ことの方は，damit (それと共に)に媒介されて追加的条件であることを示した上で，これから開発領域に成る (wird) という掛かり方なのである。

このように細かい文法解釈にこだわるのは，この箇所が，それまでの第 22 章の前半の議論を somit で受けて中間総括した非常に重要な箇所であり，「経済領域」概念の趣旨を金融資本との関わりで明瞭にしようとした箇所であり，したがってまた後述するようにブハーリンとレーニンが共に注目した箇所であったからである。22 章前半の議論と切り離してこの文章だけの解釈で済ませるならば，両邦訳や英訳のように関係文であることを無視したり，damit を「したがって」「これによって」と訳しても，Exploitationsgebiet を「搾取領域」と邦訳しても，そういう解釈も成り立つということにしかならないであろう(岡崎訳 324 頁；林訳 257－258 頁；英訳 p. 326)。その点ではレーニンも利用したロシア語訳は，単純に「三つの目標」とはせずに троякаго рода цели (三通りの目標) というふうに苦心の訳を示している。そして関係文もそのまま関係文で訳しているが，残念ながら「第二」と「第三」の区別は読み取っていない。「第二」は должна быть ограждена (囲われていなければならない)，「第三」は и такимъ образомъ должна превратиться (それ故に［開発領域に］変わらねばならない) とされている (c. 495)。その影響もあるかも知れないが，後述するようにレーニンは，「第一」の「経済領域の樹立」を「植民地」(複数) と解釈している (там же, т. 27, с. 312；『全集』第 39 巻，307 頁)。

17) 他方，この植民地獲得の努力が大経済領域間の対立を増大させ，ヨーロッパのように国家的分裂によって，経済的見地から見て偶然的・不合理に多くの小経済領域に分

割されている地域では，「経済的強者［大経済領域］への弱者［小経済領域］の依存」（強者が弱者に資本を貸しつける）関係が生まれる。自由貿易が多数の小経済領域をヨリ高度の経済的統一体（＝大経済領域）に統合することがないため（ein mitteleuropäische Zollverein も利害対立が強くて創れない），両者の格差が開くからだというのである(S. 415 u. 418；岡崎訳 330，334 頁。林訳 262，265－266 頁)。これによって，資本輸出を手段とした経済的支配･従属関係が生ずる。[上掲引用部分は原著各版すべて die Abhängigkeit der ökonomisch Stärkeren von den Schwächeren となっていて，両邦訳のように「経済的強者の弱者への依存」としか訳せない。しかし意味上，前後の文脈上，この逆でないと意味が通じない。他の外国語訳を見ると，仏語訳が邦訳と同じにそのまま訳しているのを除き，露・英・伊訳いずれも私と同様，逆にして訳している。著者のミスであろう。]

逆にまた大国ドイツの植民地要求に脅かされて，フランスのような大国も他の中小植民地所有諸国同様，強大な艦隊を持つ植民帝国イギリスを頼るようになり So entwickelte sich die Tendenz, zwar nicht die Zollschranken innerhalb Europas aufzuheben und dadurch ein grosses einheitliches Wirtschaftsgebiet zu schaffen, wohl aber die kleineren politischen, wirtschaftlich daher zurückgebliebenen Einheiten um grössere politisch zu gruppieren. この，政治的に強大な国の周りに集まって保護を求め従属する中小諸国グループが，今度は保護国の特別な資本投下領域になるという経済的支配・従属関係を生み出し，一大統一経済領域の代替物的存在になる場合もあるというのである(S. 419 f.；岡崎訳 337 頁，林訳 267－268 頁)。なおヨーロッパの関税障壁を取り払うことによって，もしそれができれば，ヨーロッパは一大統一経済領域に成り得る（しかし実際は利害対立が強過ぎて不可能）という議論がくり返し出てくることは，上条氏が既に注目している（前掲論文，244，253 頁)。

18) 既に述べたように，この「開発地域」は，ヒルファーディングの邦訳では「搾取領域」と訳され，レーニン全集の邦訳でも「搾取領域」とされている（307 頁)。しかしレーニン『帝国主義論』の邦訳で，第 6 章末尾，歴史家ドリオからの引用文中「つぎの世紀（すなわち 20 世紀）の最も本質的な事実となるであろう地球のあの大規模な開発」(т. 27，c. 384；副島訳 112 頁，宇高訳 142 頁，聴濤訳 141 頁）と訳されている「開発」の原語は，やはり эксплуатация で『帝国主義論ノート』と全く同じなのであるが，前者では皆「開発」と訳していて，「搾取」とは決して訳されていない。両方を比べてみて，疑問を持たないのだろうか？ ヒルファーディングがわざわざフランス語からの外来語 Exploitation を用いて，「経済領域」と「植民地」（開発）の関わり

を述べようとした趣旨を，「搾取領域」という余りにも一般的で本国も植民地も同等に含むような訳語を当てることによって，消し去ってはならないであろう。

19) もしレーニンが，この箇所の含意を十分に捉えたとしたら，「金融資本の政策（1.［2.＋3.］）」，「第一」に対応しては「諸植民地」の代わりに「大経済領域」，「第三」に対応しては「諸独占企業体」の代わりに「植民地」と書いたのではなかろうか？

20) 「言葉の本来の意味でではないが（в переносном смысле слова）」は，邦訳ではいずれも「比喩的な意味で」と訳され，「文字通りの（прямой）」は「直接的な［分割］」あるいは「直接の［分割］」と訳されてきた（宇高訳　111 頁；聴濤訳　109 頁；副島訳 86 頁）。誤訳とまでは言えないが，的を射た訳ではないであろう。「比喩的な意味で」分割したとは，どういう意味だろうか？　何の「比喩」だろうか？　また прямой がイタリックになっているのは何故だろうか？　в прямом смысле слова（文字通りの意味で）に関わらせて，先の переносном と対比するのが主眼であることは，明瞭ではなかろうか？

21) 実際レーニンは『帝国主義論』において，積極的には「経済領域」を《原料資源の独占を可能にする領土》程度の意味で，その可能性が無い土地をも含む「領土一般」と対比させて，第 6 章で一度使っているだけである（c. 381；副島訳　108－109 頁；宇高訳 133 頁；聴濤訳　136 頁）